

2021年3月8日

「体幹部外傷による外傷性出血性ショック患者における大動脈内バルーン遮断の有効性および安全性に関する前向き観察研究」

1. 研究の対象

2019年倫理審査承認後から2024年3月31日の間に当救命センター入院された傷患者さんのうち、体幹部の損傷により出血性ショックとなった患者さん。

2. 研究目的・方法

「目的」外傷患者に対する大動脈遮断バルーンの有効性を評価すること

「方法」対象患者さんの3の項目の調査を行う

「研究期間」2019年2月13日（倫理委員会承認後）～2024年3月31日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

試料：なし

情報：患者背景（年齢、性別、身長、体重、外傷日時、外傷原因 等）

病院前情報（搬送経路、搬送方法、救急隊接触時のバイタルサイン）来院時情報（血圧、呼吸数、体温等）検査関連情報、血液検査、治療内容、合併症 等

4. 外部への試料・情報の提供

データセンターへのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は当センターの研究責任者が保管・管理します。

研究の結果を公表する際は、被験者を特定できる情報を含まないようにします。

5. 研究組織

【研究代表者】

千葉大学大学院医学研究院 救急集中治療医学 特任助教 松村洋輔

【参加施設・共同研究者】

千葉大学大学院医学研究院 救急集中治療医学

中田孝明，安部隆三，大島拓，服部憲幸，島田忠長，今枝太郎，菅なつみ，柄澤智史，高橋希

岡山大学

内藤宏道

前橋赤十字病院

小倉崇以，生塩典敬

聖マリアンナ医科大学

松本純一

済生会宇都宮病院

伊澤祥光

済生会横浜市東部病院

船曳知弘

大阪急性期・総合医療センター

西田岳史

【本研究全体の研究事務局】

千葉大学大学院医学研究院 救急集中治療医学 助教 松村洋輔

6．お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

大阪市住吉区万代東 3-1-56

大阪急性期・総合医療センター救急診療科

研究責任者：西田 岳史

電話 06-6692-1201